



Environment Report

立命館学園 環境報告書

vol. 11 2021

28,191t-CO₂

306,565m³

Q

これらの数字は
何を示して
いるでしょう？

〔答えは裏表紙〕

立命館地球環境委員会

「持続・循環可能な地球環境の未来」を目指して

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大、ウクライナ危機の勃発など、私たちを取り巻く環境はこれまでにない転換点を迎えています。

環境問題への対応に目を向けても、日本政府は2050年までにカーボンニュートラルをめざすことを宣言。国連気候変動枠組条約第26回条約国会議（COP26）においても気温上昇を産業革命前から1.5度に抑えるため、世界の二酸化炭素排出量を「2030年に2010年比45%削減」「2050年頃までに実質ゼロ」をめざすことが合意されました。

こうした地球レベルで生起する社会課題は、さまざまな分野において、互いに関連し影響し合い、簡単には解決が難しい複雑な問題です。これまで築いてきた社会の仕組みや機能に見直しを迫る課題もあり、私たちはこれらの課題を長期的視点で捉えなおし、世界的視野を持ってグローバルに連携し、解決にむけて新たな価値を創造していく必要があります。

2015年に国際連合は、世界に共通する課題を整理し、SDGs（持続可能な開発目標）を策定しました。SDGsでは17の目標と、その下に、169のターゲット、232の指標が、2030年までに解決すべきものとして設定されています。その理念は、「人類の未来を切り拓くため、学問研究の自由に基づき普遍的な価値の創造と人類の諸課題の解明に邁進する」であり、立命館憲章の理念をまさに体現するものです。2014年の「立命館地球環境委員会」としての行動を開始して以降、2019年には、立命館SDGs推進本部を設置し、学生・生徒・児童・教職員の自主的・主体的な取り組みを支援し、地球環境問題をはじめとする社会課題に取り組む体制を整備しました。昨年度本学は、2030年に

カーボンニュートラル・キャンパスの実現をめざすことを決定。文部科学省・経済産業省・環境省等による「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」に本学は「ゼロカーボン・キャンパスWG」の幹事大学として、参画しています。

こうした取り組みを重ねてきたことで、イギリスの高等教育専門誌Times Higher Education（THE）がSDGsに関する各大学の社会貢献活動や研究活動をランク付けした「THEインパクトランキング（THE Impact Rankings）2022」において、本学は総合評価201-300位に入り、国内私立大学においてはトップクラスの高い評価を得ています。

「立命館学園環境報告書」では、環境保全、環境負荷低減などに関する立命館学園の諸活動を紹介しています。地球環境問題の解決には、私たちの日常的な取り組みも求められます。本報告書を通して、その問題を理解し解決につながる行動の一助となれば幸いです。



学校法人立命館 総長
仲谷 善雄

[環境負荷削減の中長期目標※]

年度・段階	2020年（達成状況）	2020年（中期目標）	2050年（長期目標）
 エネルギー [1m ² あたりの使用量]	約 32.2% 削減	25% 削減	65% 削減 [(長期目標のみ) 学生生徒1人あたり]
 水 [学生生徒1人あたりの使用量]	約 46.8% 削減	25% 削減	50% 削減
 一般廃棄物 [総量]	約 67.0% 削減	25% 削減	50% 削減
 教育・研究	環境意識の高い、様々な分野での地球環境保全、環境負荷低減活動のリーダー的人材輩出。キャンパスを実験フィールドとした産学連携の技術開発へ繋げる事で社会に貢献し、併せて自らの環境負荷低減に繋がる好循環のサイクルを生み出す。		
 地域社会への展開	学生が中心となった地域貢献活動の充実、各キャンパス毎に行政と連携強化。		
 提携大学との連携	提携大学の環境負荷削減に対して協力することで世界的レベルでの温室効果ガス排出量削減等に貢献する。		
 情報公開	『見える化』により、学園構成員の一人ひとりが問題点を正しく認識し、その改善に向けて、積極的に取り組んでいくことで環境負荷低減に繋げる。		

※中長期目標とは、2010年に立命館地球環境委員会発足時に設定した環境負荷削減目標です。基準年度はエネルギー・水は2008年度、一般廃棄物は2010年度としています。

立命館環境行動指針

立命館学園は、立命館憲章において、「人類の未来を切り拓くため、学問研究の自由に基づき普遍的な価値の創造と人類の諸課題の解明」に向けて邁進することを宣言している。人間を取り巻く環境の維持、新たな循環システムの構築は、まさに私たちが志す「人類の未来を切り拓く」取り組みに他ならない。自然科学のみならず、社会制度・システムの再構築や人間の行動原理の理解と解明など、様々な分野における人材育成と学術研究は、本学園が果たすべき大きな役割の一つであると認識する。

立命館は、学園のビジョン「挑戦をもっと自由に Challenge your mind Change our future」に基づき、学園構成員が、既存の枠を超え学園全体が一丸となり、教育・研究を通じて持続・循環可能な地球環境の「未来をつくる」決意をここに表明する。

行動指針

立命館は、持続可能な開発目標の達成に向けた社会的責任を果たし、社会共生価値のさらなる創出を図るべく、カーボンニュートラル・キャンパスの実現をめざす。具体的には、温室効果ガス排出量削減を含む環境負荷低減に向け、自主的な削減目標を設定し、学園構成員一人ひとりが主体的に行動する。

- [1] キャンパスのエネルギー、紙、水の使用量及び廃棄物の排出量を正確に把握し、分析、評価することで、環境負荷の低減ならびにエネルギーコスト削減につなげる。キャンパス整備計画においてはエコキャンパス化を追求する。
- [2] 小学、中学、高校、大学、大学院それぞれの世代に合わせた環境教育を推進するとともに、児童・生徒・学生・大学院生による取り組みの支援を通じて、様々な分野で地球環境保全、環境負荷低減活動のリーダーとなる人材を育成する。
- [3] キャンパスを産学連携の技術開発の実験フィールドとして研究活動に活用し、また自らの環境負荷低減に繋げる。
- [4] 環境教育分野での、自治体・地域社会・NGO・NPO・他大学等との連携を推進する。
- [5] 情報公開を通じて、学園の環境への取り組みを『見える化』することにより、学園構成員の一人ひとりがその到達点と課題を認識し、継続的に改善に取り組むサイクルを創り上げ、持続的な環境負荷低減の実現を目指す。

2014年11月26日
(改定) 2022年2月16日
学校法人立命館





立命館学園の 環境分野の教育・研究活動



立命館学園

2030年 カーボンニュートラル・キャンパス実現へ

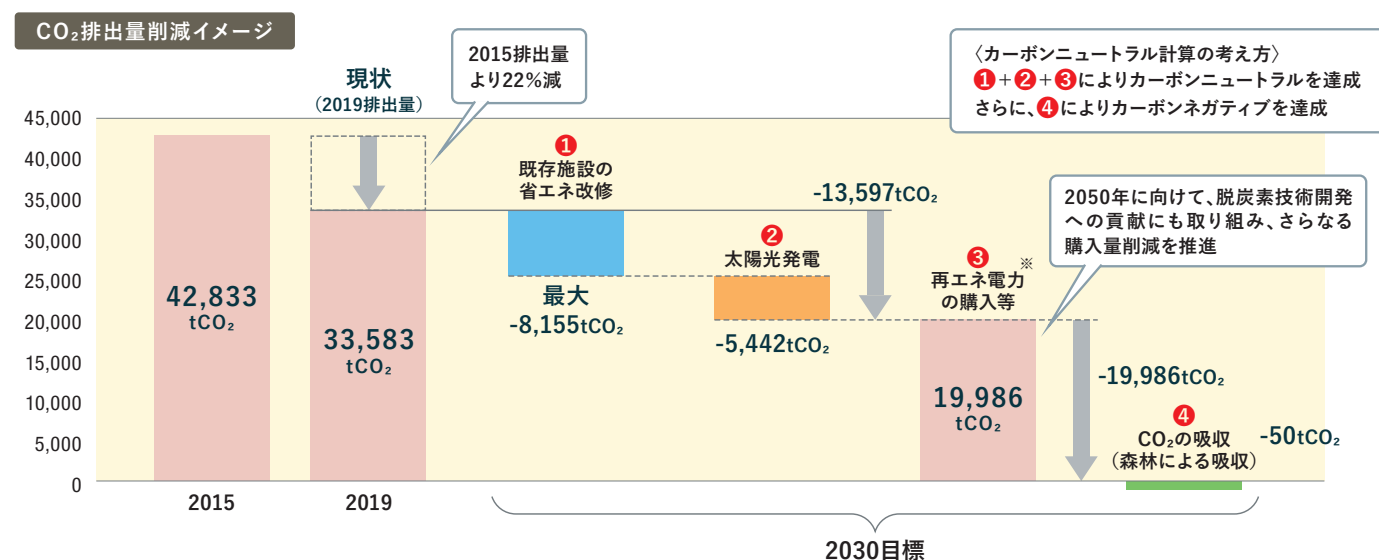
2021年7月21日（水）、学校法人立命館（以下、立命館）は、2030年にカーボンニュートラル・キャンパスの実現をめざすことを決定しました。

昨今、環境問題や環境負荷軽減への社会的関心は一層高まりをみせています。「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」旨の首相表明（2020年10月臨時国会所信表明）、グローバル企業による2030年カーボンニュートラル達成への取り組み表明など、国内外を問わず、自治体・産業界をはじめ各分野においてカーボンニュートラル達成目標の公表や取り組み内容などの検討が進められています。

大学に対しても、技術革新の基盤となる科学的知見の創出や普及、地域と連携した取り組み、グローバルな連携など、カーボンニュートラル達

成に向けた大きな期待が寄せられつつあります。2021年度春には、文部科学省・経済産業省・環境省等による「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」が立ち上がりました。「ゼロカーボン・キャンパスWG」、「地域ゼロカーボンWG」、「イノベーションWG」、「人材育成WG」、「国際連携・協力WG」の5つのワーキング（WG）で構成され、立命館大学は「ゼロカーボン・キャンパスWG」の幹事大学として、参画しています。

立命館は、こうした社会動向を踏まえるとともに、これまでの環境負荷軽減やSDGsへの取り組みをさらに高度化・進展させ、社会貢献、社会共生価値のさらなる創出を図るべく、カーボンニュートラル・キャンパスの実現をめざします。



※電気の排出係数は、電気事業者連合会による2030年度目標値(0.37kgCO₂/kWh)を使用

『立命館×SDGs』サイトをリニューアル

2022年2月15日（火）より『立命館×SDGs』サイトをリニューアルいたしました。

立命館は、2030年に向けた学園ビジョン「挑戦をもっと自由に Challenge your mind Change our future」のもと、世界に共通する課題解決に向けて、教育、研究、地域連携・社会連携・産学連携の枠を超えた統合的な取り組みとしてSDGsを推進しています。

立命館に関わる一人ひとりが持続可能な社会の達成に取り組み、教育・研究のさらなる進展に取り組んでまいります。

このたびのWebサイト・リニューアルを通じて、SDGsそして本学の取り組みをさらに社会の皆さまにご理解いただき、未来に向けた多様な「取り組み」「つながり」の場となることを願っています。



『立命館×SDGs』サイト

<http://www.ritsumeai.ac.jp/sdgs/>





立命館学園の 環境分野の教育・研究活動



立命館大学

「THEインパクトランキング2021」2年連続国内の私立大学で最高評価に

2021年4月21日(水)、イギリスの高等教育専門誌Times Higher Education (THE) が発表した「THEインパクトランキング (THE Impact Rankings) 2021」において、立命館大学は総合評価201-300位にランクインし、2年連続で国内の私立大学で最も高い評価を得ました。

「THEインパクトランキング」は、国連サミットで採択された持続可能な17の開発目標 (SDGs) に対して、大学が研究や社会貢献活動を通じていかに取り組んでいるのかをTHEがランク付けしたものです。各大学はそれぞれの強みに合った目標 (ゴール) を選んでエントリーできる仕組みで、3回目となる2021年は、過去最多となる世界1,240校がランキングの対象となりました。

また、このランキングでは総合評価に加え、目標 (ゴール) 別ランキングも発表され、本学は「SDG11：住み続けられるまちづくりを」で国内の大

学で最上位になったほか、「SDG2：飢餓をゼロに」、「SDG6：安全な水とトイレを世界中に」、「SDG12：つくる責任、つかう責任」、「SDG14：海の豊かさを守ろう」、「SDG16：平和と公正をすべての人に」で、世界トップ100位台となりました。



立命館アジア太平洋大学 (APU)

国内トップクラスの木造建築で、カーボンニュートラル社会の実現へ

立命館アジア太平洋大学は、APU2030ビジョン「APUで学んだ人たちが世界を変える」の実現のため、2021年～2030年の中長期計画「チャレンジ・デザイン」を策定し、2021年度から取り組みを進めています。そうした中、2023年4月の新学部開設 (予定) と既存2学部の改革に関連して、より教育効果を高める新たな教学棟と国際教育寮APハウスの建設を計画しています。

その新たな教学棟の中央部分は木造建築となり、今回使用する木材のほぼ全てに大分県産のスギ材を利用する予定です。クリーンウッド法に準拠した合法的な木材と認められたもののみを使用、木材量は400立方メートル以上を想定しており、国内の木造建築でもトップクラスの規模となります。構造や内外装に地域材を積極的に活用することにより、APUとしてCO₂削減に貢献し、カーボンニュートラル社会の実現に向けた取り組みを推進していきます。





立命館学園の 環境分野の教育・研究活動



立命館中学校・高等学校

京都フィールドワーク「さすてなプロジェクト」を実施

立命館高校2年生GLコースは2022年3月に、GL研修「さすてなプロジェクト」を実施しました。本取り組みは、社会課題の理解とその解決に向け、グローバルな視点での社会課題解決策を生み出す経験を得ることを目的とし、特に、「サステナビリティ+食」をテーマに、フィールドワークなどを通じて、SDGsに関する見識を深めることを目指します。

フィールドワークでは、3つのグループに分かれ、それぞれのテーマに基づき、実地調査を行いました。日本初のゼロウェイストスーパーである斗々屋に訪問したグループは、量り売りかどのように行われているのか、サステナブルな店の工夫について学びました。また、西喜商店を訪問したグループは、どのような食材が売られており、仕入れルート、環境に配慮した

育て方をされた野菜はどんなものがあるかなどを調査していました。他にも、Zero Waste KyotoやGood Nature Stationなどに訪問したグループもあり、食べ物がどのように生産、流通、消費、廃棄されているのか、無駄はどこにあるのか、それぞれの企業のサステナブルな取り組みは何か等について調べました。

事後学習では、GLコース卒業生らなどのワークショップを行い、高校生がフィールドワークでの学びを共有し、意見交換会を実施。その後、フィールドワークでの知見を活かし、SDGs弁当アイデアコンテストを実施しました。現在、さらにサステナブルなSDGs弁当の実現、販売に向けて活動中です。



立命館宇治中学校・高等学校

「CHANGE MAKER U-18 日本一決定戦」で優勝

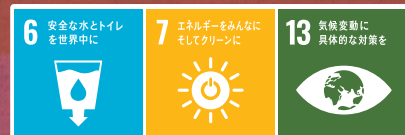
2021年12月26日(日)、全国の高校生を対象としたプレゼンコンテスト「CHANGE MAKER U-18未来を変える高校生 日本一決定戦」にて、立命館宇治高校3年生(2021年度当時)の福田奈津実さんと田中愛乃さんが出場し、見事日本一に輝きました。

全国から299チーム(616人)の応募があり、一次審査・二次審査を経て、決勝に臨む5チームに選ばれた福田さんと田中さん。「ボンズ」というチーム名で、育てたら食べられるのに捨てられる廃棄苗を救うプロジェクトについて、プレゼンテーションを行いました。本プロジェクトでは、「廃棄苗を子供たちの教育のツールにすること」を目指し、これまでに廃棄苗や苗についての自作冊子を見学施設に届けたり、小学生への食育授業などを行ったりしてきました。決勝では自分たちの取り組みやこれからの夢を堂々と発表し、見事優勝しました。





立命館学園の 環境分野の教育・研究活動



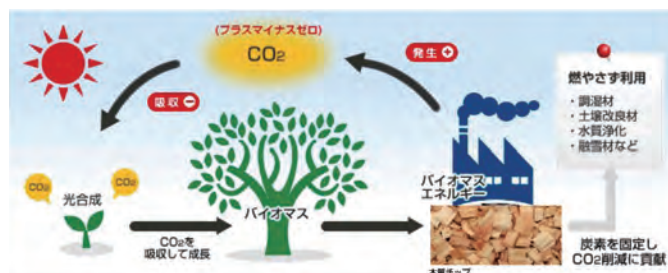
立命館慶祥中学校・高等学校

木質バイオマスボイラーの導入

立命館慶祥中学校・高等学校（以下、慶祥中高）では、CO₂ニュートラルな燃料として注目されている森林資源由来の木質バイオマス（木質チップ）を利用した木質バイオマスボイラー、ならびにLPG（液化石油ガス）を利用した温水ボイラーも合わせて導入しました。



木質バイオマスは、大気中に新たなCO₂を増やさない“カーボンニュートラル”な資源として、近年注目されており、CO₂排出量の削減が期待されます。また、慶祥中高の



ある北海道では木質チップが安定的に入手できることも魅力です。

さらに、木質チップの燃料灰は、地域の栽培園の土壌改良材（肥料）や融雪剤として活用でき、「地球温暖化防止」、「資源循環」等（SDGs）の大切さを学校内で実践的に学ぶことから、バイオマスエネルギー利用設備の教育的活用も視野に入れています。

立命館守山中学校・高等学校

水をテーマにした研究活動“水環境ワークショップ”を開催

2021年12月21日（火）～23日（木）、立命館守山高校GLsクラスでは、日本最大の湖「琵琶湖」が身近にある立地を活かし、「水環境ワークショップ2021」を実施しました。

ワークショップでは、琵琶湖の基本情報やプランクトン採集のノウハウについて学んだ後、湖上実習と沖島でのフィールドワークを行いました。

湖上実習は、琵琶湖大橋港と沖島港で行い、採集された様々な植物プランクトンや動物プランクトンを観察し、分析を行いました。

また、2021年度初の試みである、沖島でのフィールドワークでは、琵琶湖の水や生態系の変遷、漁業の現状について学び、植物、動物、人間の3テーマに分かれ、フィールドワークを行いました。

フィールドワークを終えた後、そこで得られたデータ、知見をまとめた、発表会を実施。発表会では、原生動物、ワムシ、ミジン



コといった「ミクロ」をテーマとする3グループ、植物、動物、人間という「マクロ」をテーマとする3グループに分かれ、顕微鏡観察の結果やフィールドワークで得られた学びを報告しました。

立命館小学校

立命館小学校5年生「SDGsリレー講話」を実施

立命館小学校5年生は2021年2月に「SDGsに対してチャレンジしている人の話を聞こう」をテーマに「SDGsリレー講話」をオンラインで実施しました。

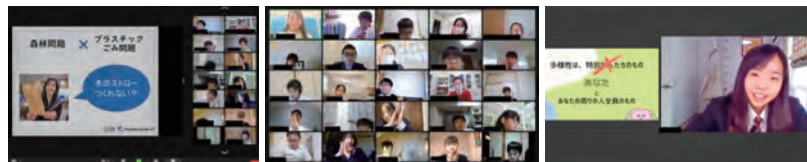
初回は世界初の「木のストロー」を開発した住宅会社（株式会社アキュラホーム）の西口彩乃氏（理工学部2012年卒業）から木のストローの製作秘話やさまざまな苦悩、木のストローに携わることで生まれたSDGsへの関心などを中心に講演いただきました。子どもたちには「身近な問題意

識・課題意識が、日本を、世界を変えるきっかけになるかもしれない」、「そのために、今、学んでいることを大切にする」と思える機会になりました。

続けて翌日は、本校卒業生である中野実桜さん（立命館宇治高校IBコースに在学）から2回の留学経験などで得た「多様性」や「SDGs」等についての自身の考えや体験を語っていただきました。コロナ禍の影響でオンライン講義となったため、中野さんが自ら考案したダイバーシティについ

て考えることができるゲーム（「IROIROゲーム」）に取り組むことは叶いませでしたが、「夢に挑戦し続ける」彼女の姿勢は子どもたちに多くの刺激を与えました。

立命館小学校では多くの子どもたちがSDGs推進に貢献していくことを願い、今後も取り組みを行っていきます。





立命館学園の 環境分野の教育・研究活動



立命館地球環境委員会

「新しい生活様式」の啓発ポスターを制作

学園全体の地球環境貢献への取り組みを主導する「立命館地球環境委員会」では、新型コロナウイルス禍における「新しい生活様式」を踏まえ、構成員一人ひとりがより健康で持続可能な暮らしを送れるよう、新たな啓発ポスターを制作しました。

ポスターデザインには、立命館慶祥中学校・高校出身の金田一七海さん

が携わり、立命館大学 Sustainable Week 実行委員会と立命館サステナビリティ学研究センターの協力のもと、制作されました。

ポスターは全4種類となっており、従来の節電・節水などといった行動の抑制を喚起するデザインではなく、SDGsや新しい生活様式を意識した、持続可能性や健康志向に訴えかけるポスターを目指しました。



サステナブルキャンパス・アイデア・コンテスト2021 最優秀賞表彰式を開催

2022年2月9日(水)、学園全体の省資源化を推進する学内機関「立命館地球環境委員会」が主催するサステナブルキャンパス・アイデア・コンテスト2021の最優秀賞表彰式を朱雀キャンパスにて開催しました。

今年度のコンテストでは、「温室効果ガス削減に向けて私たちができること」をテーマに、学校法人立命館に所属する学生・生徒・児童よりプランを募集、25件の提案が寄せられました。

その中から産業社会学部1回生(2021年度当時)の伊藤健真さん、清水宏樹さん、杵築一流さん、馬銘悦さんらのビジネスプラン、「遊休物品」の学内シェアリングサービス『Rircle(リルクル)』が最優秀賞に選出されました。

Rircleは、衣笠キャンパス内でのシェアリングエコノミーの構築を目指し、学生・教職員が利用しなくなったモノで、他者と共有化できる良質なモノ

ノ(遊休物品)のシェアリングを通じて、生産時と処理時に排出する温室効果ガスの削減をめざします。

表彰式では学生からRircleで生まれたシェアリングの実例が報告され、自分に必要なくなったもので

も、他の人にとっては新たな価値や機会を提供できることについて語られました。

審査員を務めた近本智行教授(立命館大学サステナビリティ学研究センター長)は、「CO₂削減自体を意識せず、結果的にCO₂削減に貢献するという発想が興味深かった。今後は、カーボンフットプリント*などの仕組みを取り入れ、生産・廃棄時に発生するCO₂が当該取組を通じてどの程度削減できるのかを試算・提示することで、より良い提案取組になるのではないか」と総評しました。

仲谷善雄総長は、「立命館は社会とさまざまなつながりがあり、社会の最前線で学べる機会があります。その機会を大いに活用して、学びを深め、プランを改良していきましょう」とエールを送りました。

※カーボンフットプリント…商品やサービスのライフサイクル全体で排出される温室効果ガスをCO₂量に換算し、表示する仕組み



サステイナブルキャンパスの実現に向けて

立命館では、サステイナブルキャンパスの実現に向け、省エネルギー・省資源化に関する施設整備が行われています。ここでは、その一部をご紹介します。

立命館大学 衣笠キャンパス

啓明館大規模改修

文学部カリキュラム改革に合わせて、文学部の基本棟である「啓明館」の全面的なリニューアルを行いました。より多様で、より充実した教学を展開できる空間の整備をめざし、清心館と一体的にゾーニングを再編、内装を一新するとともに、老朽化した各種設備を更新しています。照明のLED化、空調設備等の更新により、電気・ガス・水の使用量を大きく削減できる見込みです。



新たな環境負荷低減の中長期目標（2030年まで）

立命館では2020年まで環境負荷低減の中長期目標を設定し、達成に向けて各種取組を推進してきました。結果、コロナ感染症等の影響があったものの、エネルギー・水・一般廃棄物の全てで中期目標を達成することができました。今般、これまでの成果等を踏まえ、2030年までの新たな中期目標を設定しました。2030年までに「カーボンニュートラル」をめざすなど、国内大学の中でも高い目標を設定しており、達成に向けて学園一丸で取り組んでまいります。



	⚙ エネルギー	💧 水（2013年度基準）	🗑 一般廃棄物（2019年度基準）
2030年までの 中期目標	カーボンニュートラル	46%削減（1㎡あたり）	30%削減（総量）
2050年までの 長期目標	地球環境負荷軽減への寄与	地球環境負荷軽減への寄与	石油プラスチックによる 環境汚染ゼロ

The Ritsumeikan Global Environment Committee

Sustainable Campus Idea Contest

立命館地球環境委員会

サステイナブルキャンパス アイディア・コンテスト

立命館では、2009年度から「立命館地球環境委員会シンポジウム」を毎年開催しています。当シンポジウムでは回ごとに環境問題に関連したテーマを一つ定め、そのテーマに関するゲスト講演やパネルディスカッションを通して学園構成員の環境に対する理解と関心を深めています。また、2014年度（第6回）からは、立命館学園に在学する学生・生徒・児童を対象にアイデア・コンテストを実施し、当シンポジウム内で優秀者の表彰を行っています。過去の表彰アイデアの中で、実際に広報物として配布された作品の一部を紹介します。

1 2014最優秀賞受賞作品 立命館慶祥中学校・高等学校 金田一 七海さん



3 2018最優秀賞受賞作品 立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 Nurul Habibah (ヌルル・ハビバ) さん



2 2017最優秀賞受賞作品 立命館大学 理工学部 白鳥 克哉さん



4 2020最優秀賞受賞作品 立命館大学 産業社会学部 キム・スンファさん



1 ついついやりがちな蛇口の閉め忘れ…。そのたった少しの水で生きられる命がたくさんあることを考え直す機会を与えてくれました。

2 このステッカーが貼られたマイボトルを持参すればキャンパス内カフェでドリンク割引などの特典が得られるとともに、本来利用されていたはずのプラスチックカップの排出量削減が実現できるというアイデア。実際、びわこ・くさつキャンパスでは、地元農家と連携して地元農産物をふんだんに使ったスムージーを入れてボトル販売することで多くの学生が購入し、地産地消の促進にもつながりました。

※現在、配布はしていません。

3 エレベーター周辺に掲示するポスター。階段を積極的に利用することによる節電と、学園構成員の健康増進を目的としています。

4 2020年度は初めて動画に特化したコンテストを開催しました。最優秀賞を獲得した動画は不法投棄に関する内容となっており、ジャーナリスティックな内容が高く評価されました。動画は立命館HPに公開されており、誰でも視聴することが可能です。

年間を通じたピークカット（最大電力削減）の取り組み

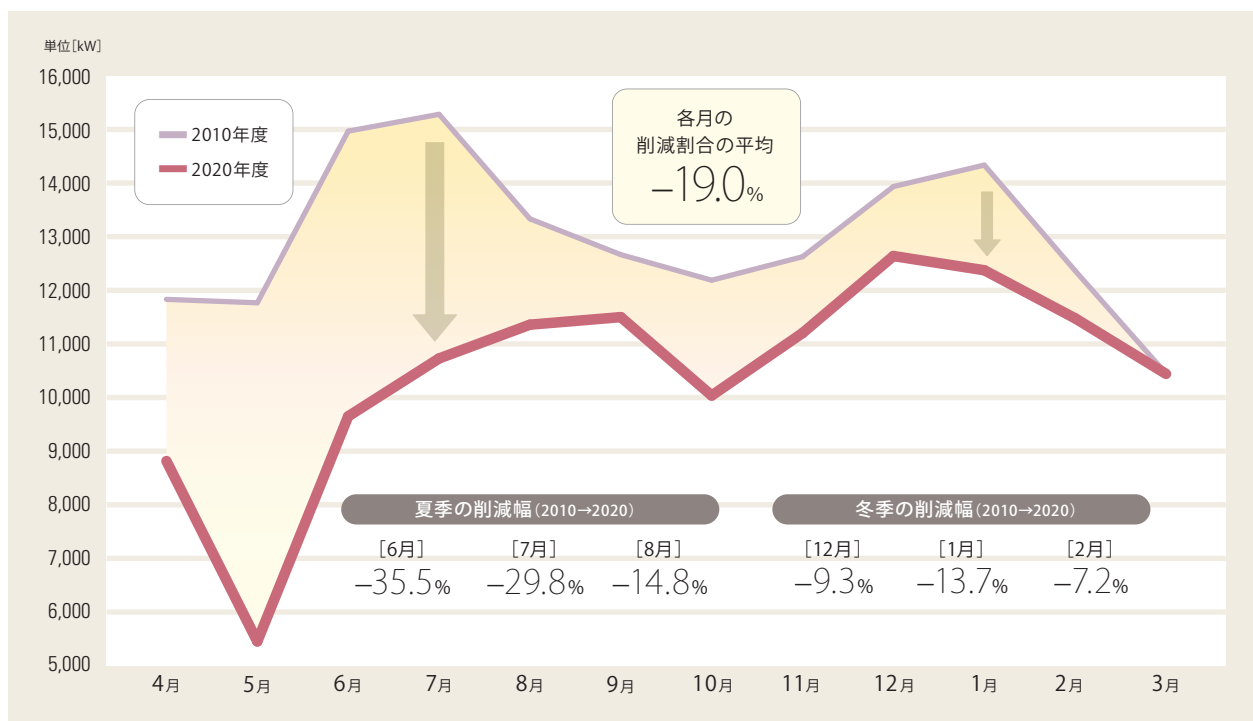
空調機器の使用により電力需要の高まる夏季・冬季においては、①中長期目標達成、②文部科学省からの節電要請対策、③電力会社との契約電力遵守の3つの観点から節電の取り組みを実施しています。

2020年度における各月の削減割合平均は2010年度比-19.0%となり、年間を通じ最大電力を削減することができました。これはコロナウイルス感染症の蔓延に伴う緊急事態宣言等により在宅ワーク・Web授業が実施されたことが大きく影響していると思われます。

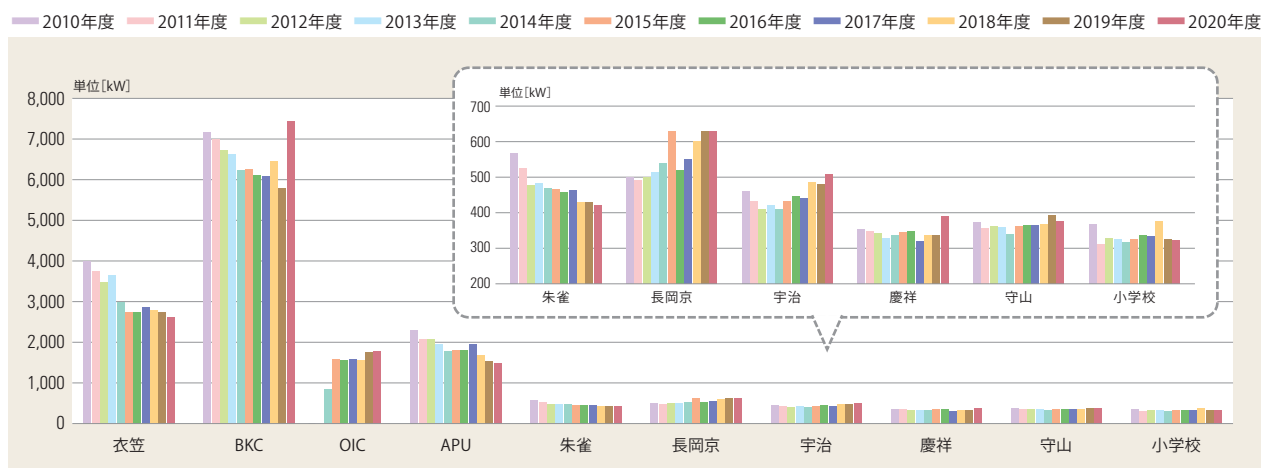
今後は感染症対策として換気負荷を上げながらの空調が必要となるため、引き続き以下のような取り組みを推進し、電力需要のピークカット・平準化に向けた施策を推進していくことが重要となります。

- 1) 消し忘れ防止のための空調・照明スケジュール運転、支障のない範囲での共用部照明間引き、長期休暇中の昇降機一部停止などといった施設運用上での取り組み。
- 2) こまめな消灯の呼びかけ等、節電・省エネ行動の推進。
- 3) その他、各キャンパスの状況に応じた取り組み（コージェネレーションシステム適正稼働によるデマンド超過回避、等）

■ 立命館学園 10 キャンパスの最大電力の推移（2010年度はOICを除く9キャンパス）



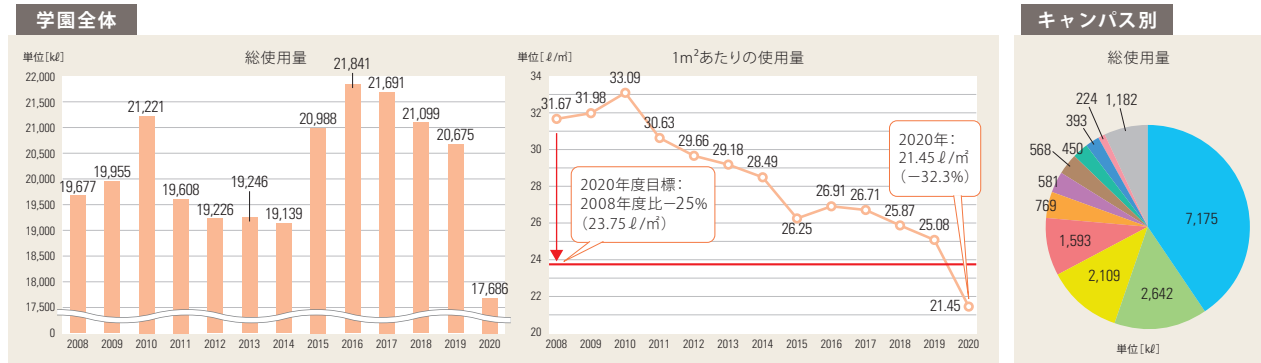
■ キャンパス別最大電力推移



環境影響項目の使用・排出実績

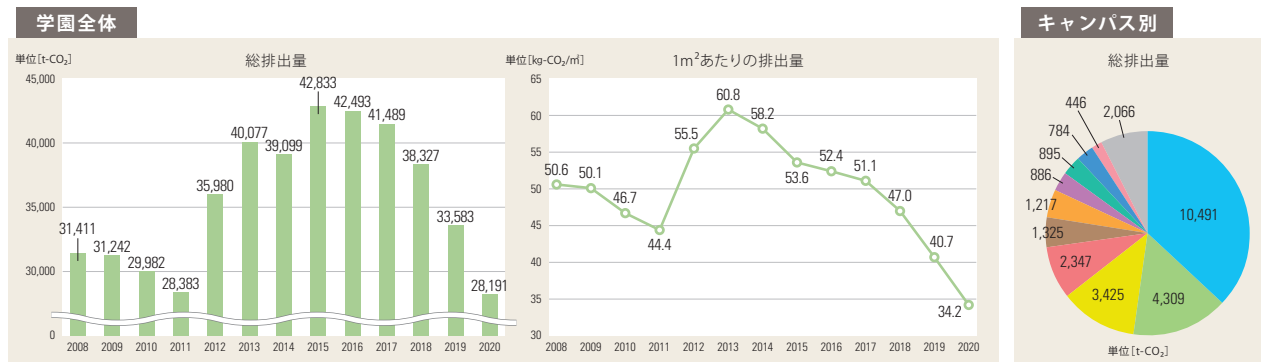
2020年度 エネルギー使用量〔原油換算〕

「省エネの取組」や「コロナ禍によるキャンパス利用の減少」に起因したエネルギー使用の減少により、使用量は4年連続で減少しました。これにより2020年度の中期目標（2008年度比-25%）を達成しました。2021年度以降エネルギー使用量に関する中期目標は設定されませんが、引き続き、省エネに資する取組を推進していきます。



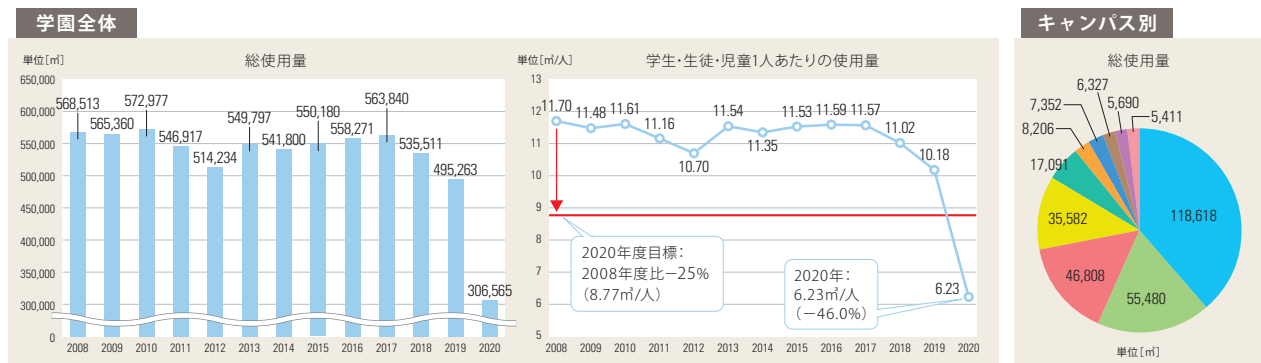
2020年度 温室効果ガス排出量

「エネルギー使用量の減少」や「排出係数の改善」等により、温室効果ガス排出量は7年連続で減少しています。パリ協定の締結など低炭素社会実現に向けた世界的な気運の高まりを受け、立命館においては2021年7月に「2030年度にカーボンニュートラル・キャンパスを実現する」ことを宣言しました。目標達成に向け、省エネに加え創エネ等に関する取組も推進していきます。



2020年度 水使用量

「各種節水器具の導入」・「節水意識の高まり」や「コロナ禍によるキャンパス利用の減少」に起因した水使用の減少により、使用量は昨年度に引き続き大幅に削減できました。これにより2020年度の中期目標（2008年度比-25%）を達成しました。今後、2030年度までの新たな環境目標達成のためにも、学園構成員一人ひとりに対して、より一層の削減努力が求められます。

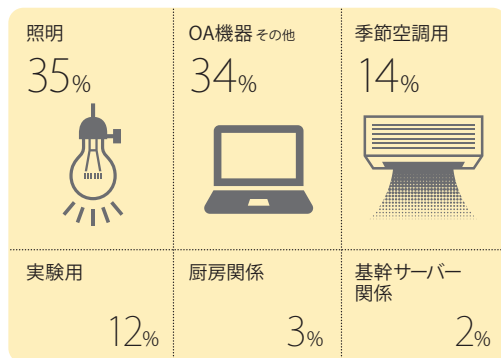


立命館大学衣笠キャンパス	立命館大学朱雀キャンパス	立命館宇治中学校・高等学校	立命館小学校
立命館大学びわこ・くさつキャンパス	立命館アジア太平洋大学	立命館慶祥中学校・高等学校	その他
立命館大学大田原キャンパス	立命館中学校・高等学校	立命館守山中学校・高等学校	

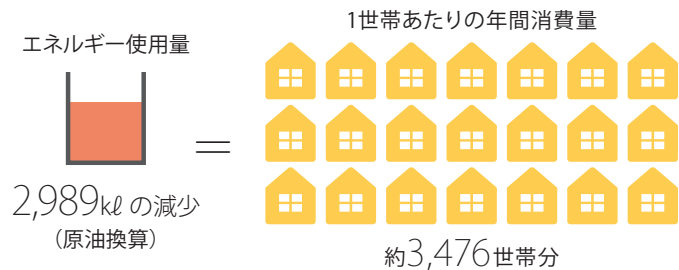
環境影響項目の内訳と前年度対比変動量のめやす

2020年度 エネルギー使用量〔原油換算〕

電気使用の割合（概数）

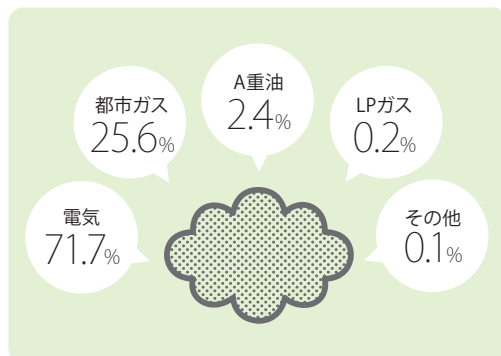


立命館学園のエネルギー使用量は2019年度比で2,989kℓ減少しました。これは、平均的な1世帯あたりの年間エネルギー使用量を0.86kℓ（※1）とすると、約3,476世帯分に相当します。 ※1：エネルギー白書H29年版より試算



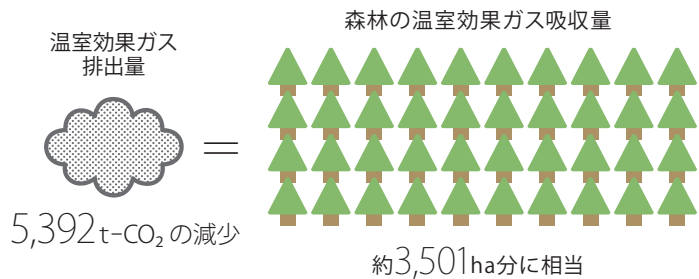
2020年度 温室効果ガス排出量

温室効果ガス排出量の起源別割合



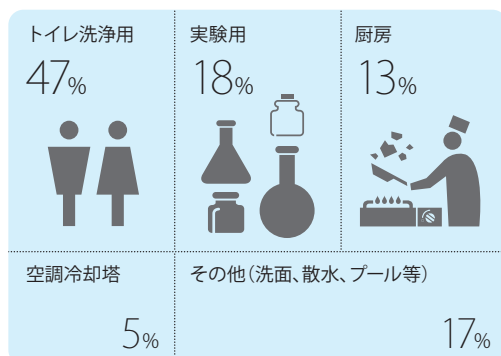
立命館学園の温室効果ガス排出量は2019年度比で5,392t-CO₂減少しました。この排出量は、森林（天然生林）の平均的な温室効果ガス吸収量を1.54t-CO₂/ha（※2）とすると、約3,501ha分に相当します。

これは、立命館学園が所有する総土地面積（約232.0ha）（※3）の約15.1倍に相当します。 ※2：京都市地球温暖化対策条例の算定基準を参照 ※3：2021年3月31日現在

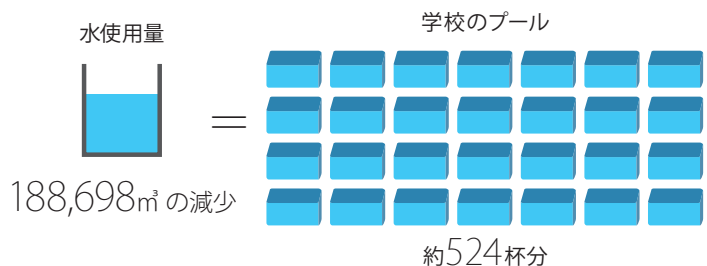


2020年度 水使用量

水使用量の割合（概数）



立命館学園の水使用量は2019年度比で188,698m³減少しました。これは平均的な学校のプール（25m×12m×1.2m＝360m³）に換算すると約524杯分に相当し、500mℓ入りペットボトルでは約3億7,740万本に相当します。



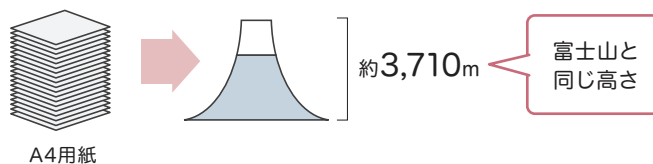
[年間紙使用量]

各キャンパスで購入したコピー用紙をA4に換算して使用枚数を算出しました。キャンパス別に紙使用枚数を比較すると、2020年度の使用枚数は立命館学園全体で41,225,819枚で、最も多いのは衣笠キャンパス(9,730,175枚)、次いでBKC(6,512,355枚)でした。学園全体では2019年度より2020年度は約51%の削減となりました。これは、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う緊急事態宣言等により在宅ワーク・web授業が実施されたことが大きく影響していると思われます。

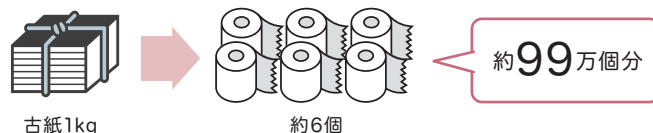
2020年度に使用した紙使用枚数をA4に換算して積み重ねると、高さは約3,710mとなります。これは富士山の高さとほぼ同じになります。また、トイレットペーパーは古紙1kgから約6個再生されますが、使用した紙が全て古紙再生されたと仮定すると、約99万個分のトイレットペーパーを再生できます。トイレットペーパーの一人あたり年間使用量を約50個とすると約19,800人分に相当します。

両面印刷や2in1印刷にする、紙の資料配布をせずにデータ配信する等の工夫を徹底することにより、紙使用量を減らす取り組みをさらに進めます。

●高さ換算 (A4換算、500枚=約4.5cmとして)



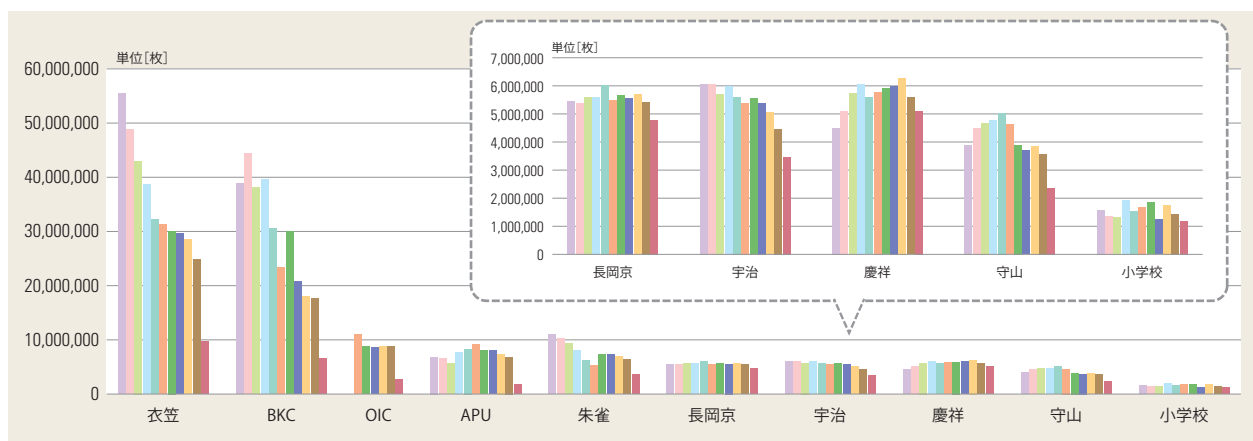
●トイレットペーパー換算 (A4換算250枚=1kg、古紙1kgあたり約6個再生として)



●紙使用量を減らす取り組み



— 2010年度 — 2011年度 — 2012年度 — 2013年度 — 2014年度 — 2015年度 — 2016年度 — 2017年度 — 2018年度 — 2019年度 — 2020年度

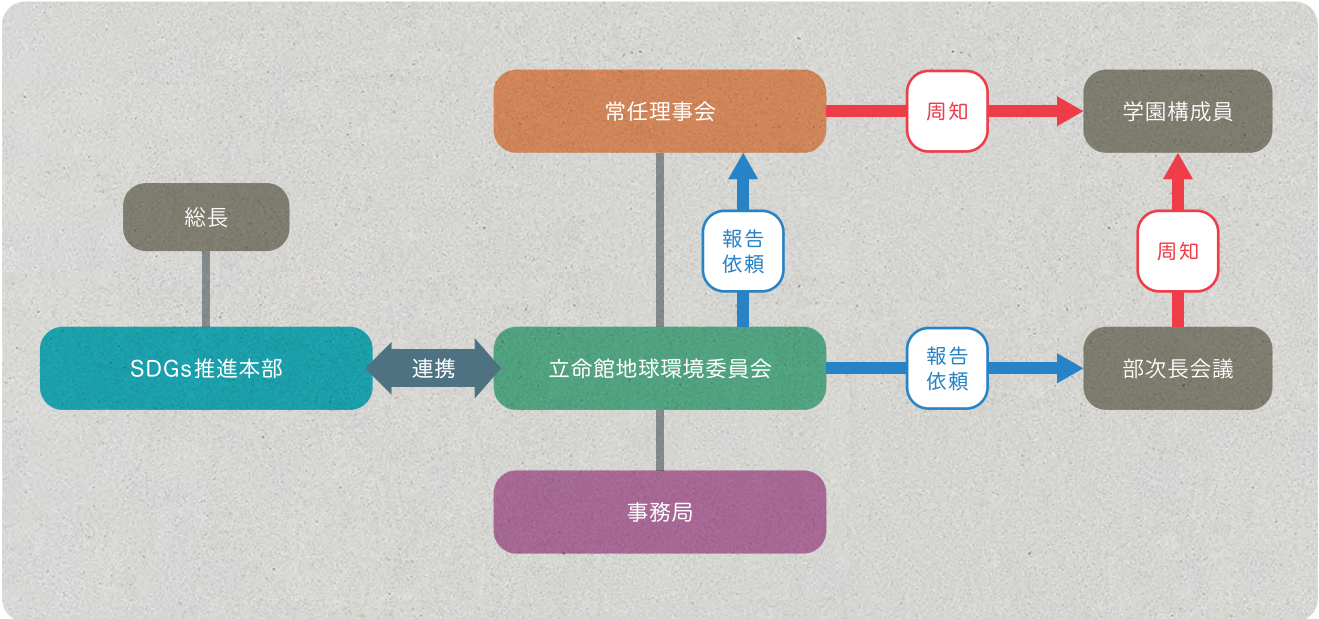


[紙リサイクルの仕組み]



立命館学園の環境マネジメントシステム

立命館地球環境委員会は、児童・生徒・学生・教職員が学園全体で環境問題に取り組むため、2010年2月1日に発足しました。2021年4月1日からは「SDGs推進本部との役割整理」・「組織規模の適正化」等の観点から組織体制の変更を行い、これまでの各部会を廃止するとともにSDGs推進本部との連携を強化することとしました。



立 命 館 概 要

名称 学校法人立命館 創立者 中川小十郎 創立年 1900年(明治33年)(私立京都法政学校)

校地・校舎面積 (2021年3月31日現在)

キャンパス	土地面積	延床面積
朱雀キャンパス	8,119.02㎡	27,138.68㎡
衣笠キャンパス	126,276.01㎡	175,639.92㎡
びわこ・くさつキャンパス	629,521.88㎡	255,379.71㎡
大阪いばらきキャンパス	108,179.82㎡	116,077.09㎡
立命館アジア太平洋大学	427,187.49㎡	115,494.76㎡

キャンパス	土地面積	延床面積
立命館中学校・高等学校	42,483.00㎡	37,827.63㎡
立命館宇治中学校・高等学校	133,335.74㎡	25,437.58㎡
立命館慶祥中学校・高等学校	238,218.76㎡	21,721.72㎡
立命館守山中学校・高等学校	61,910.95㎡	22,358.69㎡
立命館小学校	10,147.00㎡	11,357.91㎡

教職員数 (2020年5月1日現在)

立命館大学教員	1,414名
立命館アジア太平洋大学教員	166名
小学校・中学校・高等学校教員	606名
学校法人立命館職員	1,423名

学生・生徒数 (2020年5月1日現在)

立命館大学	
大学 32,467名	大学院 3,677名
立命館アジア太平洋大学	
大学 5,469名	大学院 196名

小学校・中学校・高等学校	
● 立命館中学校・高等学校	1,862名
● 立命館宇治中学校・高等学校	1,707名
● 立命館慶祥中学校・高等学校	1,539名
● 立命館守山中学校・高等学校	1,581名
● 立命館小学校	707名

立命館の環境に関わる取り組みを webサイトで紹介しています。

立命館地球環境委員会では、環境負荷低減活動の一環として、2011年6月に環境HP「eco+R（エコール）」を開設しました。立命館のエネルギー使用量、温室効果ガス排出量、水使用量に関するデータ、キャンパス毎の最大電力グラフ、環境に関わる研究、学生・生徒・児童の環境に関わる取り組みなどを紹介しています。ぜひご覧ください。

eco+R

エコール

Ritsumeikan Environment Report

 <http://www.ritsumei.ac.jp/rs/eco/>



ANSWER

答え



28,191 t-CO₂

本学園の2020年度の温室効果ガスの排出量です。
これを吸収するためには、琵琶湖の約0.65倍の面積の
森林(天然生林)が必要です。*

306,565 m³

本学園の2020年度の水使用量です。
500 ml入りペットボトルでは約6億1313万本に相当します。